

わ か ば

2019. 5. 4
 (令和元年)
 第19-4号
 文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～(2年次)

いよいよ、新しい元号「令和元年」が始まりました。・・・またとない機会 作文指導

これまで慣れ親しんできた「平成」も、5月1日から「令和」に変わりました。そこで、本校では今後、「令和」の元号を使用していきます。

さて、元号が変わる時代に出会うのは、子どもたちの長い人生でも、そう多くあるものではありません。日本の文化、伝統、風習などを考えるうえでは、またとないチャンスとも言えます。

小学部の高学年や中高等部で、「令和の時代を迎えて」や「平成を振り返って」「アメリカと元号」など、アメリカに生活しているからこそ感じる、考えるテーマのもとに作文にすれば、文芸作品コンクールにも応募できそうです。



【「令和」の関連】

外務省は、平成に代わる新元号「令和」について外国政府に英語で説明する際、「Beautiful Harmony＝美しい調和」という趣旨だと伝えるよう全ての在外公館に指示したとのことです。

また、日本では、5月1日(水)は、「天皇の即位の日」、10月22日(火)は、「即位礼正殿の儀の行われる日」として、今年限定の「国民の祝日」となります。

参観懇談会の日程紹介(参観授業・学級懇談会)

5月11日(土)	小1, 3, 5年 中学部	○参観授業 5校時
5月18日(土)	幼稚部、小2, 4, 6 高等部	○学級懇談会 14:50～
 学級懇談会 の流れ	授業参観 1:50～ [幼稚部・小学部] 自己紹介 2:50～3:05 教育委員会より 3:05～3:20 担任より 3:20～4:10 ・学級経営方針等	授業参観 1:45～ [中学部・高等部] 自己紹介 2:45～3:00 教育委員会より 3:00～3:10 担任より 3:10～3:40 ・学級経営方針等 教科担任より 3:40～4:10
		

送辞

在校生代表 高等部2年

タニ 大河（現 高等部3年）

冬の厳しい寒さも和らぎ、空を飛び交う小鳥のさえずりや、暖かな日の光、いよいよ春めいてまいりました。

このような佳き日に、3年生の皆様が晴れて高等部のご卒業を迎えられました事、在校生一同、心より祝い申し上げます。

今、皆さんはこの三年間の高校生活をどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。高校生活は長く、また短くも感じられたのではないのでしょうか。

現地校での日々努力してきた授業や勉強、またお互い切磋琢磨し、厳しい練習に臨んだスポーツや部活動など、日本人学校と現地校との両立に、先輩方が一步一步突き進んでゆく姿を私たちは何度も目にしてきました。

そんな先輩方は、私たちの目標であり、頼もしい支えでありました。また先頭に立って引っ張っていつてくれる力強い存在でした。

この3年間多くの喜怒哀楽、様々な出来事が鮮明に思い出されることと思います。私も、先輩方とともに過ごし、教えていただきました多くのことが思い出されます。私たち高校2年生は、高校3年生の皆さんと同じクラスとなり、温かく仲間に入れていただきました。学年の垣根を越え、一緒に勉強したり、休み時間にはトランプで大富豪ゲームで盛り上がりました。

運動会では、全校生徒の前で悠々とラジオ体操の模範をされたり、下級生のお手伝いをされてきました。障害物競走の時は、先輩方は、大変張り切って走っておられました。何といっても紅白リレー、皆さん一人一人が本気の走りでした。風を斬って前をまっすぐ見つめる、今でも先輩たちの鼓動が伝わってくるように感じる圧巻のリレーでした。

※下段へ

※上段の続き

学芸会では、先輩方と共に企画立案し制作した劇では、私たちをぐっと導いてくださいました。（ケンちゃんとレイ君）何度も何度も35億の立ち動きを練習しましたね。面白い流行言葉であった「そんなのかんけーねー」の劇のセリフを聞いて先輩と一緒に笑いましたね。

下級生がみんな楽しんでくれた大成功を収めた学芸会では、団結力、新たなものを生み出そうとする創造力などは、到底私たちの及ぶところではなく、そんな先輩方のようにになりたい、少しでも近づけるようにしたいと学ばせていただきました。

いつも集中力を欠くことなくやり遂げる、最後まで諦めずに仲間とともに頑張れば実力以上の力を発揮できることを身をもって教えていただきました。

本日、卒業式を迎えられる先輩方は、希望と夢を抱いて新しい世界に羽ばたこうとしておられます。先輩方一人一人の新たな長い旅が始まります。新たな社会へ旅立たれ、夢の実現に向かって進んで行くことは容易な事ではないでしょう。旅の途中で、大きな苦勞や困難にぶつかるともあると思いますが、思い出してください。

日本人学校と現地校との両立は、日々の高校生活だけでは得ることのできない密度の濃い時間でした。スーパ－高校生の生活を通して、鍛えられた精神力や忍耐力、臥薪嘗胆（がしんしょうたん）がしんしょうたん 目的を果たすため苦難に耐え、努力を重ねること）は、これからの人生の中で必ず生きてくることだと思います。

本校で巡り合った友人との絆を将来の宝とし、信念をもって未来を切り拓いていってください。そして、日本、アメリカ、世界をリードしてってください。

今、こうして振り返ってみますと、先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでありました。そんな先輩方が、自分の夢のために日々試行錯誤し、邁進してこられた姿を、私たちはずっと見てまいりました。これからは、先輩方が築きあげられてこられた伝統を、私たちが継承し、後輩の見本となるう、精一杯精進してまいります。

最後になりましたが、卒業生の皆様より一層のご活躍とご健勝を在校生一同心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

答辞

卒業生代表 高等部3年

彦坂 健太郎

ポートランド特有の雨の季節も終わりに近づき、爽やかな日が続くようになりました。このような日に卒業式を迎えることができ、嬉しく思います。

本日は、僕達のために卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。

振り返れば、長いようで短かった日本人学校でした。しかし、ここで学んだことは時間以上の価値のものがありません。それは勉強だけではありません。

6年間アメリカ、そして日本人学校で生活してきて気づいたのは人間関係の大切さでした。

僕が困った時にいつも周りにいて支えてくれたのは、友達、先生方、そして家族でした。一時期、現地校が嫌で嫌で、僕が早期卒業を検討していた時に相談に乗ってくれたのは日本人学校の友達とそのお母さんでした。またある時は、僕が落ち込んでいた時に青柳先生は本気で僕を心配して声をかけてくれました。そして、家族のサポートなしでは僕はここで卒業を迎えられなかったと思います。今まで僕を支えてくれた友達、先生方、そして家族に感謝します。特に、日本人学校では友達のおかげで楽しいことがたくさんありました。

豪太は、いつもうるさかったですが、輪の中心にいてみんなを笑わせてくれました。また、彼は歌うのが大好きで、中でもALLのコーシヤルでおなじみの「海の声」を機嫌がいい時はいつも熱唱していました。でも、国語の授業中には僕が音読している時にいつも横で変顔をしたり変な声を出したりするのであまり集中して読めませんでした。

市橋は、熱心家です。勉強もそうですが、彼の現地校のロボティクスのチームについては、いつも熱心に語っていました。また、彼の授業中のツッコミはいつも的確で面白かったです。でも、何故かいつも一番笑うのは大石先生でした。

※下段へ

※上段の続き

れいくんは、アイシユタインです。数学ではわからないところをいつも教え合っていました。真面目なイメージのある彼は、学芸会では嫌がっていたWith Bの役を率先してよくしようとしてくれました。

森は、面白くてバスケが上手いです。いつも彼と一緒にバスケットをしたのは楽しい思い出です。また、彼は、みんなをいつも心配してくれていて優しいです。僕が運動会で怪我をしたときも一番気を遣ってくれました。

カーラーさんは、アーティストです。絵がうまく、いつも彼女の描いた絵を見ると感動します。また、学芸会の時はいつもリーダーとしてみんなを引っ張ってくれました。そんな彼女が今年は学芸会にいなかったのもとても大変だったと思うと同時に、彼女の凄さを感じました。

よっしーは、字が綺麗です。彼の漢字テストを見ると、毎回字の綺麗さに脱帽します。また、スポーツ万能です。みんなでボーリングに行った時、彼が後ろ向きに転がしてもストライクを出したのは衝撃的でした。

鈴木は、バカ正直です。からかったり冗談を言ったりすると、無視しないでちゃんと返してくれます。そして、なんだかんだで頼りになります。今年の学芸会では、飛び入りでの参加でしたが、音響担当として学芸会を成功に導いてくれました。

彼らなしではここでの生活はこれほど楽しくはなかったでしょう。彼らと友だちになれたことを心から誇りに思い、嬉しく思います。そして、日本人学校で築いた人間関係をこれからも大事にしていきたいです。

日本人学校を卒業してから、僕たちはそれぞれ違う道を歩んでいきます。愉快な仲間たちとの別れは寂しいですが、日本人学校で学んだことをもとに、この卒業式をゴールではなく、一つのスタート地点として、これからも精進していきたいと思っています。

最後になりますが、僕達卒業生のために適切な助言をしてくださった先生方に、改めてお礼を申し上げますとともに、この瞬間まで見守ってくれた家族に感謝します。

日本人学校、そして在校生の皆さんの輝かしい未来を願い、答辞とさせていただきます。

新旧の良さを生かしながら、授業の質を高める・・・ 一斉 → ペアやグループ → 一斉

日本国内では一般的に、一斉授業が多く展開されていましたが、一斉授業では、個々の児童生徒の理解が確かめにくい、質問などがしにくい、児童生徒相互の人間関係を深められないなどもあり、毎時間ではありませんが、一斉授業からペアやグループ別授業(調べたり話し合ったりする授業)、そして再び、一斉授業へと戻り、学習をまとめていく授業が多くなってきています。

このことは「主体的・対話的で深い学び」に通じる学習の在り方です。この授業形態をとると、どのような学びのよさとなるのでしょうか。それは、

① 受け身的から能動的な授業へ	○教師からの発問や指示を基にした受け身的な授業から、児童生徒が活動する場として、(場面、活動)で能動的な授業へと授業の質と内容を高める。 【主体的】
② 尋ねたり説明したりする学習へ	○教師や友達に尋ねることが比較的しやすくなり、理解が進む。 ○話し合って考えを深めたり、他者に説明したりすることでコミュニケーション力が高まる。 【対話的】
③ 理解と定着を深め、自尊感情を高める。	○学習のまとめ(理解したこと、気づいたこと、感じたこと、友達の良さ発見など)で、学習を振り返り、理解が深まる。 ○知識理解や学習意欲を高めたり、自己の良さなどに気づいたりして、自己存在感や自分自身を大切にする自尊感情が高まる。 【深い学び】

写真は、上記のグループ学習とは違う6年生合同の「チームティーチング授業(TT 授業)」の様子です。「チームティーチング授業」とは、全体の一斉指導を T1 である五味先生が行い、もう一人の教師である秋山先生が T2 の役割で、机間巡視をしながら、適宜、助言したり考え方の支援を行ったりする授業のことです。(T・・・Teacher)

全体の五味先生からは、見えづらい児童の理解や進み具合を、T2 の秋山先生が把握しながら、適切な助言やフォローしていき、学びを深めてました。感想を聞くと、

- ①「たまにこのような一緒にの授業があったらいい」
(理由 新鮮味と先生に聞きやすいから)
- ②「面白かった」「楽しかった」
(理由 前の友達と一緒にになったから)

T2 秋山先生

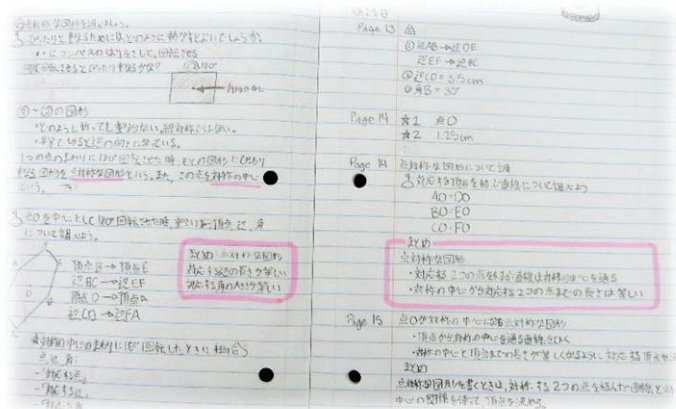
T1 五味先生



簡潔で分かり易い6年生のノートの紹介①

なぜ、素晴らしいか？ (掲載の了解済みです)

- (1)めあてと調べる(考える)視点がある。
 - (2)考えている道筋(思考過程)が分かる。
 - (3)文章と図形で説明している。
 - (4)まとめを明確に文章に表し、ピンクの蛍光で学びの重要さを強調している。
 - (5)ページを示し、丁寧な字で書いている。
 - (6)両開きで、学びを完結している。
- とても感心したので、ご紹介しました。



5月11日の5号から「児童生徒の作品紹介」を始めます。すでに複数学年から、作品の提供をいただいています。本年度は、どのような作品に出会えるか楽しみです。 校長 信國寿敏



2019年度 6月・7月 安全当番・図書当番

6月1日(土) 6時間授業	9:00 12:40	岡沢 宏美 徳永 貴士	徳田 稔
	11:40~3:35	タニー さよ 豊田 太郎	鳥居 ヒューゴ 岡治 知世江
6月8日(土)	9:00~12:50	山本 佳範 山内 隆広	山村/ライス 直子
	11:50~3:40	山崎 正憲 ヤーブロウ 和子	八尾 憲治 安田 慎吾
6月15日(土)	9:00~12:50	安原 純 吉田 正昭	吉野 龍太
	11:50~3:40	吉田 武 ヤング 亜希子	横山 敬子 湯浅 友和
6月22日(土) 6時間授業	9:00~12:40	内山 良 上中 友	若田 大介
	11:40~3:35	上田 知穂 渡辺 知美	渡邊 浩志 渡辺 修司
6月28日(金) 6時間授業	9:00~12:40	ホワイト あさみ 薬師寺 秀明	矢巻 敏彦
	11:40~3:35	渡邊 豊秋 池田 修	飯田 昌夫 石田 渡

7月13日(土) 6時間授業	9:00~12:40	アイヴァセン ピーター 小畑 知弘	川北 浩司 小山 憲一
	11:40~3:35	木村 真理子 岡本 章	片山 敬章 白田 陽介
7月20日(土)	9:00~12:50	三浦 将胤 桑原 匠	元田 太郎
	11:50~3:40	小林 菜知 足立 圭	阿出川 さおり 相羽 立志

※ご都合のつかない方は、代わりの方を見つけてその旨をご連絡ください。

代理の方が見つからない場合は事務局までご相談ください。ご協力ありがとうございます。

日本人学校事務局 pjs@shokookai.org ☎503-641-9200(火～金)